

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第50回 全日本合気道演武大会



第 50 回全日本合気道演武大会

五十回の節目を 盛大に開催



植芝守央道主による総合演武

第50回全日本合気道演武大会が5月26日、日本武道館で開催された。

大会には全国各地の合気道修業者が集結、450団体7800名が演武を披露。今年は第50回ということもあり、例年より多くの出場者が参加し、節目の年にふさわしい盛大な演武大会となった。

当日は晴天に恵まれ、午前11時の開場を前に、大勢の演武者・観客が列をなした。

大会は定刻の正午に、可児晋合気会理事による開会の辞で幕を開けた。はじめに植芝守央合気道道主が主催者を代表して挨拶に立った。

次に、松永光日本武道館会長、島村宜伸日本武道館常任理事、山谷えり子参議院議員、保坂三蔵元参議院議員、武正公一衆議院議員が来賓祝辞を述べた。

開会式が終わると早速演武に移った。関東学生合気道連盟の演武者全員が一斉に礼をして、第一部がスタート。5つの演武場で、全国各地の道場、連盟、社会人団体が、それぞれ1分30秒、日頃の稽古の成果を発表した。演武者は老若男女、有段者・

初心者など関係なく、互いに技を掛けあっていた。

高段者による自由演武や師範演武が披露されると、観客や他の出場者は、目を凝らして、その巧みな技の数々に見入っていた。

第一部の最後は、本部道場指導員、本部道場師範の演武と続き、植芝充央本部道場長代行の演武で締めくくられた。

休憩を挟んで、第二部が始まった。第二部では、高等学校連盟演武・中学生演武の若さあふれる演武や、ロシア・シンガポール・スウェーデンによる海外道場演武などの、特色ある演武も行われた。

終盤になると師範演武、自由演武が続ぎ、熟練の演武が次々と展開され、会場は気迫に包まれた。

そして大会最後には、植芝守央合気道道主の総合演武が行われ、立ち技、座り技、半身半立ち、武器取り、多人数掛けを演武した。合気道道主による数々の技に、会場からは盛大な拍手が送られた。

古藤昇司合気会常務理事が閉会の辞を述べ、第50回全日本合気道演武大会は幕を閉じた。

50回の節目を迎えて

植芝守央合気道道主に聞く

演武大会終了後、植芝守央道主に、大会を終えての感想や演武大会の思い出などについて、お話を伺った。

「私の演武大会デビューは、昭和39年の日比谷公会堂での大会です。中学1年生のときでした。まだ当時は少年部はありませんでしたが、少年部と称して出場しました。その後しばらく出ていませんでしたが、昭和50年頃からはずっと演武していています。

それぞれの大会に思い出がありますが、昭和54年に父が病気になる、28歳でトリを務めたことが特に印象深いですね。開祖の生誕100年を記念

した演武会、父の追悼演武会など、節目の大会も印象に残っています。

今回も、例年以上に多くの方が集まり、50回という節目の大会を盛会に開催できて嬉しく思います。第1回は参加者180名だったのが、今回は7800名までになりました。それだけ合気道が浸透したということの表れだと思います。これも先達が積み重ねてきた流れがあるからであり、この引き継いだ流れを大事にしながら次の世代に伝えていきたいです。今日出場した演武者の方たちも、同じような意識をお持ちのことだと思います。

しかし、社会の中では、まだまだ合気道が広く認知されているとは言えません。合気道とはどのようなのか、誰もがパッとイメージできるような武道にしていきたいと思います。そのためには、武道必修化で学校教育に入ったのも良いことですし、地域での地道な活動など、無理のない方法で合気道をさらに普及し、次の世代に受け継いでいけたら良いと思います」



高段者によって 繰り出される



工藤泰助合気道敷島塾師範



高本和宜熊本合気会師範



針すなお高伝館館主



植芝充央本部道場長代行



小出武夫錦糸町合気道倶楽部師範



中村克也山口合気会師範



竹中日出雄和歌山県合気道連盟師範



武田義信A-K I 師範



嶋本勝行正泉寺道場長



壬生川堯一合気道正武会師範

熟達した技の数々



石本富男熊野塾道場師範



多田宏本部師範



菅沼守人合気道祥平塾道場長



遠藤征四郎本部道場指導部師範

荒井俊幸 群馬県合気道連盟師範

同じく第1回から出ている小林先生と話し合い、50回の節目で卒業しようと決めました。この大会で思い出に残っているのは、20年くらい前、ある瞬間、ふっと霧が晴れたようにアナウンサーが言っていることがすべて聞こえ、観客席にいる人たちの顔を見られるようになった時のことです。それまではただ夢中で演武していたのですが、集中するというのはリラックスすることだと、その瞬間に分かった気がしました。

今回の演武者の中で、第1回から出場しているのが、荒井俊幸群馬県合気道連盟師範、小林保雄小林道場師範である。両師範はこの50回の節目で、全日本合気道演武大会での演武を最後に行うこととした。自身にとって最後となるこの大会で、両師範は子・孫との三代での演武を披露した。

小林保雄 小林道場師範

50回続けて出場することができ、最後に家族3代で演武できて嬉しく思います。生まれが東京・九段なので、この思い出の深い場所で次の世代にバトンタッチできたのはありがたいことです。少し寂しいですが、みんなにもまだ元気でできるのといわれますが、若い方もどんどん増えているので、次に譲っていくということも仕事のひとつじゃないかと思い、今日を最後に行うことにしました。若い人たちが育って、こういう大会で名譽ある演武ができるのは大切なことです。





- 2 全国高等学校合気道連盟演武
- 3 中学生演武
- 4 文化センター演武 NHK文化センター、朝日カルチャーセンター立川、東急セミナーB Eニ子玉川、銀座おとな塾産経学園、成増ロンドフィットネススタジオ、よみうりカルチャー、日本武道館武道学園、華漂会、えきスポうめじま、大泉合気道同好会、南林間カルチャー、三ツ境カルチャーセンター、相模原カルチャーセンター、ビッグバンカルチャーセンター、昭和の森カルチャーセンター
- 5 海外道場演武 A A F R、Ueshiba Aikido Association、スウェーデン合気会
- 6 指導者演武 田中満、石田俊樹、堀内浩子、山口誠人、白川竜次
- 7 師範演武 田中英生、堀越祐嗣、佐藤智、西井信晴
- 8 師範演武 高本和宜、竹中日出雄
- 9 道場演武 浦和合気会、秩父進修館、入間幸武館、川越道場、川口芝合気会、佐久合気道会、大塚道場明道館、祖師谷合気会、平塚合気会、府中合気会、大宮道場、桜道場、銚合気塾塩尻道場、隆氣館、心合会、朋清会グループ、蓮田合気会、神戸せいぶ館、立川市合気道会、白光合気会船橋、新宿スポーツセンター、北総合気会、久喜同好会、双峰合気道会、流山市連合、小林道場、中野区合気道会、中央区合気会、新宿合気会、千代田区合気会、港区合気会、江東区合気会、北区合気道会、調布合気道会、板橋区連盟、江戸川区連盟
- 10 指導者演武 黒川領太、大野泰生、戸間替崇、夏坂昭博、樋口龍馬
- 11 社会人団体 日経、廣済堂、みずほ証券、村松楽器、J F E シビル、三菱、裁判所、東京税理士会麻布支部、理双会、公認会計士、東芝、明治大学、川崎市役所、富士通沼津
- 12 道場演武 合気道京都、岐阜一元会、自灯館、城東誠和会、大宮合気道友会、江戸崎合気会、小山合気会、市原合気会、吾勝会、鎌ヶ谷市連盟、青山会、横河電機、つくば牛久友会、池袋同好会、仲池同好会、円悠会、辻堂道場、西新宿合気会、合気道三浦、甲府合気会、横浜国際合気道会、茨城支部、祥平塾、熊野塾紀宝支部、正武会、多摩合気会、石志塾沼津合気会、山梨行徳館、一宮合気会、京都合気会、和光道場、堀越道場、京都近江合気会、三澤塾、東京寿和会、相模原武道学園、相模原市連盟、ひたちなか合気会、志木合気会、大成合気道会、浜風合気会、多田塾奥州、青雲塾、小俣合気道会、錬成会、志鵬会、名古屋道場、里美八頭会、研修館、袖ヶ浦合気会、ふれあい塾、明倫塾、蔵合気道会、龍ヶ崎合気会、裾野合気会、八千代市連盟、小牧合気会、館林クラブ、王禪寺
- 13 防衛省合気道連合会演武
- 14 本部道場少年部演武
- 15 本部道場一般演武
- 16 茨城支部指導部指導員演武 大和田幸正、永島義道、久保田清三、磯山俊博、平澤憲次
- 17 師範・指導員演武 五味田由紀子、沼田秀輝、小川卓也、神谷英志
- 18 師範演武 五十嵐和男、白川勝敏、追分拓哉
- 19 師範演武 藤井幸一、鈴木順子、堀井悦二
- 20 師範演武 日高浩、渡引好文、横山清一
- 21 師範演武 窪田有弘、和田昭、稲垣繁貴
- 22 師範演武 安野正敏、関昭二、島海幸一
- 23 自由演武 針すなお、荒井俊幸
- 24 自由演武 中村克也、小出武夫
- 25 自由演武 遠藤征四郎、石本富男
- 26 自由演武 小林保雄、菅沼守人
- 27 自由演武 多田宏

総合演武 植芝守央

好評発売中

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的心身論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の二書。



神戸学院大学教授 前林清和 著
(四六判・上製・370頁)

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節 武士の覚悟／第二節 禅と悟り／第三節 能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節 不動心／第二節 武道の悟り／第三節 駆け引き／第四節 目付／第五節 瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節 気とは何か／第二節 気の歴史と武士／第三節 勝負と気／第四節 天道と心気／第五節 静と気／第六節 達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節 武道の型／第二節 柳生の技／第三節 武蔵の技／第四節 竹刀打込剣術／第五節 心法重視の型剣術／第六節 柔よく剛を制す／第七節 矩／第八節 鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節 現代剣道と人間形成／第三節 佐川派大東流の技と修行／第三節 身を処する／第四節 死と生



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



（B5判・236頁）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

全日本高齢者武道大会

生涯現役、高齢剣士 586 名が参加

剣道・林学選手（静岡・86歳）に内閣総理大臣賞
銃剣道・岡本正一選手（群馬・83歳）

第34回全日本高齢者武道大会（主催＝財団法人全国老人福祉助成会）が6月4日、日本武道館で開催された。剣道、銃剣道の2種目に、50歳から95歳までの高齢剣士586名が参加し、長年研鑽してきた技を存分に振るった。



剣道個人戦、寿A決勝＝林学（静岡）対井上恒次郎（東京）、林（右）が面を決めて勝利した

開会式では、開会宣言、国旗拝礼、国歌斉唱に続いて、前回大会から今大会までの間の物故者に黙祷が捧げられた。

開会式の様子▼



●剣道出場選手コメント

□寿A（85歳以上）

▽優勝Ⅱ林選手（静岡・86歳）



決勝は、井上恒次郎（東京）選手から小手・面を奪い二本勝ちした。

「90歳近くになると、自ら動いて技を出すのがなかなか出来なくなってきました。決勝ではこちらから面を打ち、決められたのがよかったです」※寿A・Bの優勝者で争われる内閣総理大臣賞は、寿Bの優勝者が棄権したため、林選手が獲得した。

□寿B（80～84歳）

▽優勝Ⅱ宮崎克己選手（福岡）



前回に続いての優勝。

「最近、子供たちと稽古

をすることが多いです。元気があるので勝てたのだと思います。どんなことでも健康と元気が大切です」

□女性総合トーナメント

▽優勝Ⅱ前田真由美選手（大阪）



「前回優勝者の村上久恵選手に誘われて出場しました。本格的に稽古に取り組んだのは40代後半から。子供と一緒に始めました。優勝できて嬉しいです」

●団体戦

▽優勝Ⅱ栃木県・渡辺孝選手（監督）

「普段、40分の形稽古のあと、出席者50人で1時間のまわり稽古をしています。今回、その成果ができました」



次に、成元善一大会会長、全日本

高齢剣友会高崎慶男会長が挨拶。神奈川剣道連盟小林英雄会長の祝辞と続き、功労者顕彰（90歳以上で参加した9名の選手が表彰）、各種目の審判長注意が行われた。その後、銃剣道の中山幸四郎選手（東京・94歳）が、会場全体に響く張りのある声で選手宣誓を行い、大会が開幕した。

開会式の後、日本剣道形、銃剣道の形、居合の演武が行われ、試合開始となった。

試合は会場を13コートに分け、剣道、銃剣道の各種目で争われた。個人戦は、剣道が「寿A、寿B、特、A、B、C、女性総合トーナメント」の7組、銃剣道が「A、B、C、基本技」の4組に分かれて競われた。団体戦は各種目とも、1チーム5名のトーナメント形式で争われた。出場した高齢剣士たちは、終始はつらつとした姿で試合に臨み、各コートでは熱戦が繰り広げられた。また、試合後は勝敗を超えてお互いの健闘をたたえ合う姿が多く見られた。

大会が終わった後も高齢剣士たちは仲間と武道談義に花を咲かせ、元気な足取りで会場を後にした。



●銃剣道出場選手コメント

□個人戦A（80歳以上）

▽優勝Ⅱ岡本正一選手（群馬・83歳）

2年ぶりの優勝。決勝の相手は昨年と同じ齊藤寛選手（静岡）。上胴・下胴を奪って見事二本勝ちした。「動きに対する足技がまだ不十分。足を鍛えて攻めの銃剣道をしたいです。このような健康な体をいただいで、親に感謝しています」

□個人戦B（70～79歳）

▽優勝Ⅱ遠藤守選手（茨城）

「出るからには勝たなければいけない。勝負の鉄則ですね。待ち剣ではなく全部攻め剣で、相手が出ようとする所を先に突くという戦法をとりました。試合に出るとどうしても緊張してしまうので、平常心を保つよう心掛けました」

□個人戦C（55～69歳）

▽優勝Ⅱ小川功選手（千葉）

「今回、初めて参加しました。先輩方が、この大会で立派な姿で試合に臨んでいるのを見て、以前から自分も出場してみたいと思っていました。一戦必勝でがんばりました。来年も参加できるように精進したいと思います」

□基本技（55歳以上）

▽優勝Ⅱ福地正義選手（静岡）

2連覇達成。「送り足がよくなかったので、重点的に直しました。気・剣・体が一致するようにしました」

□団体戦

▽優勝Ⅱ愛知県大将・寺田信二選手

3人制でありながら、中堅が揃わず、2人で勝ち上がって連覇を達成。「稽古量では負けないという自負があります。3連覇を目指します。来年は千葉が勝ち上がって来そう」



内閣総理大臣杯を受ける岡本選手。2年ぶりに優勝を果たした



個人戦B決勝Ⅱ遠藤守（茨城）対加藤文雄（宮城、遠藤 手前）の上胴が決まる



個人戦C決勝Ⅱ小川功（千葉）対小出秋夫（静岡）、小川（右）の上胴が決まる



—— 演武（日本剣道形、銃剣道の形、居合） ——



銃剣道の形
打方＝関根勇夫範士八段
仕方＝園部勝久教士八段



日本剣道形
打太刀＝中山健一教士七段
仕太刀＝小室光夫教士七段



居合
立会＝重田昭男教士八段、演武者＝柳原弘文教士八段、鈴木瑞子教士七段、
平館勝紘教士七段、神崎忠男錬士七段、犬飼幹雄錬士六段



写真上・面を放つ津田選手（右）、写真下・応援にかけつけた家族との記念撮影（右は息子の稔さん、左は孫の田中健一郎さん）

▽津田辰雄選手

（神奈川・95歳）

「継続は力なり。やめる事はだれでもできる。剣道は自分との戦い。己に克つことを考えて、何事も根性をもつて続けていく事が大事です」

◎取材雑感

今回、なぎなたの演武・競技が行われなかった。開会式・閉会式でも、そのことに関する言及はなかった。例年行われ、前回は45人の参加を得

ていたにもかかわらず、実施されなかったのは、とても残念だ。これまでのように、生涯武道を实践するなぎなた愛好者が多く集まる、活氣溢れる大会であってほしい。

【大会結果】

■個人戦

◇剣道

▽内閣総理大臣賞＝林学（静岡）

▽寿A（85歳以上）＝①林学（静岡）

②井上恒次郎（東京）③遠藤一美（徳島）、後藤春次（三重）

▽寿B（80～84歳）＝①宮崎克己（福岡）②佐竹良照（大阪）③竹松健（東京）、平山四郎（東京）

▽特（75～79歳）＝①三上孔（神奈川）②増尾利之（茨城）③藤田守也（愛媛、市川逸雄（三重）

▽A（70～74歳）＝①豊田芳一（東京）②川村博昭（愛媛）③高橋守（新潟）、岩田巖（神奈川）

▽B（65～69歳）＝①蛭子稔（兵庫）②二反田奉幸（神奈川）③佐藤和男（茨城）、田辺忠奉（神奈川）

▽C（55～64歳）＝①島崎厚一（東京）②合原厚（愛知）③生沼輝男（茨城）、梅本和孝（三重）

▽女性総合トーナメント＝①前田真由美（大阪）②坂田文子（東京）③嘉山節子（東京）、須崎洋子（東京）

◇銃剣道

▽A（80歳以上）＝①岡本正一（群馬）②齊藤寛（静岡）③小林英治（千葉）

▽B（70～79歳）＝①遠藤守（茨城）②加藤文雄（宮城）③神村悦夫（北海道）、寺田信一（愛知）

▽C（55～69歳）＝①小川功（千葉）②小出秋夫（静岡）③園部勝久（群馬）、作間優一（千葉）

▽基本技（55歳以上）＝①福地正義（静岡）②關根勇夫（群馬）③紫藤力男（静岡）、加藤文雄（宮城）

■団体戦

▽剣道＝①栃木県②高知県③神奈川県、千葉県

▽銃剣道＝①愛知県②群馬県

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

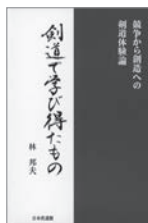


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）